この一言でたちまち私は夢のような甘味な世界から現実に引戻された．それと共にそれぞれ 19 世紀と 20 世紀の記念碑的構造物である橋を建設し，今日まで維持してきた人々のことを思わずには居られなかった．歴史の流れの中で後世に残り語りつがれる構造物の建設に携わるのは土木屋冥利につきる．これこそ私の未だ見果てぬ夢である．私の遠い記憶にフォース鉄道橋を舞台にした映画があった．最近になってやっとその題名が「37 STEPS」だとわかった．どなたか入手方法を教えていただけませんか．せめて見果てぬ夢を追い続けるために．

（筆者・*Tatsuya NAKAGAWA*，正会員
千代田化工建設（株）土木部）

What was Civil Engineering?

西　川　和　廣

一年程前まで一年間，米国で生活する機会に恵まれた．今日の米国の繁栄が，こんなにも苛酷な自然条件の上に築きあげられたものであるとは，というのがそこで最も強く受けた印象である．

私が滞在していた 1984 年の春先には，2年続いた大雪が融け始め，各地で河川が氾濫していた．Colorado 河では，Rocky 山脈の融雪による流水量がダム系による洪水調節能力を超えることが確実で，冷夏を期待するしか洪水を回避する方法はないとの見通しが早々と公表され，実際に，あまりにもあっけなく洪水は発生し，大きな被害を出した．

これが日本であれば，“人災”の二文字が新聞の紙面や TV News を賑わしたことだろう．ところが，私の見た限りでは，報道にそのような論調は見られなかった．新大陸を開拓してきた米国人は，自然の力の大きさ，恐さをまだ忘れていないんだなとそのとき感じた．

多くの日本人は，現代の科学技術をもってすれば，自然災害を克服すること位たやすいことで，安全というものは当然与えられているものと考えているのではないだろうか．これが誤解であることは，少なくとも土木技術者の目には明らかである．しかし，このような誤った意識が生まれてきたことについては，土木技術者側にも責任の一端があると思う．

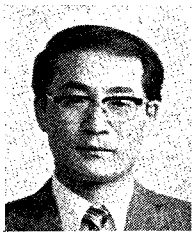
かつて土木技術者は，自然の脅威に立ち向かい，国土を築き上げるとき，民衆のリーダーとしての役割を果してきたと思う．決して民衆に安全で快適な生活環境を“与える”者ではなかった．最近，土木技術者は，自己の能力を過大評価して後者，すなわち国民の保護者たらんとしているような気がする．私には，これは“エエカッコシイ”かつ“不遜”な態度だと思えてならない．土木技術者だけの力で国土を災害から守り，築き上げることはできない．

われわれ土木技術者が現在持っている技術，日本の国土が置かれている現状等を適切にＰＲし，国民の理解と協力を得るための努力がもっと払われてもよいと思う．

（筆者・*Kazuhiro NISHIKAWA*，正会員　建設省土木研究所
構造橋梁部橋梁研究室）

海外工事における What is Civil Engineering?

大　場　　晃



私は昭和 45 年に入社し，53 年より香港に6年，シンガポールに1年，の約7年間海外工事に携わって来ました．第一線に立って現地で施工を担当する Civil Engineer にとって「海外工事における，What is Civil Engineering?」に対する私なりに学んだ事を述べて見たいと思います．

最初の香港において先輩より「お前は Civil Engineer だ，ここは日本ではないぞ」と言われ，反面「俺達は外国人だ，この仕事は本来この国の人達自身の力で完成させるべきものなのだ．ただ俺達は彼等が持っていない，出来ない，テクニカル，ファィナンス等の面で手伝いをしているのだ」と，教えられました．その時は良く意味が解りませんでしたけれど．香港，英国のカサの下にいて中国の意志の下に働いている国，その次の国，シンガポール“熱帯の奇跡”と言われ，建国 25 年にして大発展を遂げた小さな島国，何と違いの大きい事か！　同じ海外工事であり，同じ地下鉄工事であり，似た様な契約条件の下で働いているのに，クレームの問題一つ取り上げても，出発点は同じなのにアプローチの仕方の違う事，相手の反応の違う事，こう言う違いは契約書の違いよりも，その当事国の違いから来る様です．しかしなが